

あわよくば

# 2 MARK 勝負

クイーンズクライマックス、ほんとにこれでいいの？

チャレンジカップが終わり、晴れてグランプリ出場の18人、クイーンズクライマックスの12人が出揃った。常連もいれば初出場を決めた面々もいる。12月は選手の総決算とも言える時季だが、ファンにとっても今年1年を締めくくる、最高に「楽しみ」な時季だ。

ただ、1つだけ気になることがある。クイーンズクライマックスの出場に関してのことだ。PGI組(賞金ランキング上位12人)は当然、大みそ日の頂上決戦に出場する。問題はシリーズ戦だ。選考13位から54位までの42人が出場するが、賞金的にランクインしているにも関わらず、家事都合等による辞退期間中の選手が何と多いことか。今年も15人も欠場がある(11月27日時点、F休み期間の選手を除く)。

もちろん、産休を発表した西岡成美や土屋南のような選手もいる。全てのあっせんが取り消されているからだ。だがクイーンズクライマックスと被っている(前検日を含む)、いわゆる「裏開催」にあっせんが入っている選手もいる。クリスマスのみ、大みそ日のみ、31日のみ辞退を出すだけでもクイーンズクライマックスのあっせんは入らないが、逆に言えばその日を除いた他のあっせん、正月戦は入るとのことだ。

年末年始という時期、家族の

抜き差しならない事情があるのかもしれないが、それにしても15人は多すぎではないか。上位12人に残った場合はクイーンズクライマックスに出場するが、シリーズ戦回りになった場合は欠場する。ファンの間ではそんな声さえ噴出している。当然のことだ。

今年の蒲郡、来年の大村のように、大みそ日にナイター最終日を迎えると、自宅まで帰ることができず、新年をホテルで迎える選手もいる。正月戦は地元なので、車での移動も可能。賞金も通常の一般戦よりも約1.5〜2倍と高い。こちらを選ぶ選手が増えても仕方ない。

断っておくが、選手を非難したいわけではない。賞金の問題であれば、シリーズ戦の賞金をもっと上げればいいわけだし、開催日程の問題なら再考すればいい。もちろん簡単なことではないが、実際、クイーンズクライマックスの第1、2回大会はグランプリ前に行われていた。仮にグランプリとクイーンズクライマックスを入れ替えることができれば、欠場も減る、いや、いなくなるのではないか。

女子戦は、今や業界にとつて欠かせない人気コンテンツとなった。その最後の大会を「興覚め」させないためにも、何らかの策が必要なのではないか。

(渡辺将司)